

令和7年度第1回 おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

日 時：令和7年8月29日（金）

15時30分～

場 所：おいらせ町役場本庁舎 庁議室

— 次 第 —

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 報 告
（1）おいらせラボの活動報告
4. その他
5. 閉 会

(令和7年度) おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議委員名簿

令和5年9月26日～令和7年9月25日 委嘱の日から2年間

No.	条例区分 第3条関係	地方創生国区分 (産官学金労言士)	所属団体	職名	氏名	役職
1	国又は県の地方行政機関の職員	行政機関	厚生労働省青森労働局 三沢公共職業安定所	所長	楨 公彦	副会長
2	国又は県の地方行政機関の職員	行政機関	上北地域連携事務所 地域支援課	課長	関 和洋	
3	公共的団体の役員及び職員	産業界	おいらせ町商工会	副会長	柏崎 尚久	
4	公共的団体の役員及び職員	住民	おいらせ町地域活動 連絡協議会	会長	佐藤 豊	
5	その他	産業界	下田タウン株式会社	代表取締役 社長	高田 雅史	
6	その他	金融機関	青森みちのく銀行 百石支店	支店長	中村 綱吉	
7	その他	教育機関	青森県立百石高等学校	校長	木村 紀子	
8	学識経験	教育機関	弘前大学大学院 地域社会研究科	教授	平井 太郎	会長
9	公募委員	住民			佐々木 秀智	
10	公募委員	住民			佐々木 寿子	
11	公募委員	住民			遠藤 剛	

(事務局)

政策推進課 課長 田中 貴重
 課長補佐 川原 真栄子
 主任主査 馬場 祐二

3. 報 告

(1) おいらセラボの活動報告

おいらセラボは、おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議検証部会の役割を引き継ぎ、地方創生について、部員数名で意見交換や事業の研究・提案等を行うことで、おいらせ町の更なる発展を目指すものです。

①おいらセラボの役割

- ・町の地方創生事業の検証
- ・町の地方創生に関する研究、事業の提案等

②部員

No.	所 属 等	氏 名	備 考
1	弘前大学大学院 地域社会研究科 教授	平井 太郎	部長
2	公募委員	佐々木 秀智	
3	公募委員	佐々木 寿子	
4	公募委員	遠藤 剛	

③活動報告

日付	回次	内容
令和5年11月22日	第1回おいらセラボ	・おいらセラボの進め方の協議 ・総合戦略の各成果指標の確認
令和6年3月27日	第2回おいらセラボ	部員から地方創生事業の提案
令和6年5月24日	第3回おいらセラボ	提案事業の組み立て
令和6年8月9日	第4回おいらセラボ	・提案事業の調整結果、方向性等を報告 ※関係課への提案等を実施 ・空き家を活用した地方創生事業の提案
令和7年2月7日	第5回おいらセラボ	・空き家を活用した地方創生事業の意見交換 ※(株)ヘプタゴンの立花拓也社長も参加 ・デジタル技術を活用した地方創生事業の検討 ・公共交通充実に向けた検討
令和7年4月7日	第6回おいらセラボ	・シモクバの見学（空き家を活用した地方創生事業） ・デジタル技術を活用した地方創生事業の提案 ・公共交通充実に向けた提案 ・いきいき館等の公共施設の見学
令和7年5月15日	第7回おいらセラボ	イオン主催「これからのまちづくりを考えるワークショップ」に参加
令和7年8月29日	第8回おいらセラボ	・シモクバの報告（空き家を活用した地方創生事業） ・デジタル技術の活用及び公共交通の充実に向けた地方創生事業の調整結果、方向性等を報告

● 1年目（令和5年度～令和6年度）

- ・おいらせ町の発展に向けた問題提起や事業案の調査、検討しました。
- ・調査、検討した事業案等について、意見交換を行い、事業化に向けて、組み合わせや磨き上げを行いました。
- ・短期（2025年～）で検討する事業と中長期（～2030年～）で検討する事業に分け、5つの事業を町に提案しました。

○提案事業1 未来へのpassportが得られるおいらせ副読本

事業名	未来へのpassportが得られるおいらせ副読本 【「未来passport」×「お試し移住助成金」】
事業概要	現在町には、移住パンフレットがないが、県内でも特に移住者が多く、その「人」たちが町の重要な資源となっている。町の移住情報と移住者たちのライフスタイルをまとめた移住電子パンフレットを「おいらせ副読本」として作成する。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用し、町の移住情報を発信できる。 ・移住者のライフスタイルを紹介することで、町での暮らしを想像しやすく、より移住につながる。 ・児童や生徒に配布することで、町での暮らし方、町の職業などを勉強できる資料（教材）にもなり、町のキャリア教育の充実につながる。
結果	<p>移住担当である政策推進課に提案した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住パンフレット作成（令和7年度作成予定）の参考とする。 ・お試し移住助成金は検討中。令和6年度からお試し地域おこし協力隊を実施した。

○提案事業2 おいらせ町地域資源循環システム創造プロジェクト

事業名	おいらせ町地域資源循環システム創造プロジェクト【ごみの資源化事例】
事業概要	現在、おいらせ町のごみの排出量が増加している。青森県の事業である「青森県地域資源循環システム創出事業」を活用し、家庭ごみ、事業ごみ、農産物（長芋の残渣）ごみの削減に向け、おいらせ町独自の資源循環システムを検討してはどうか。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・町のごみの排出量を削減できる。 ・県の事業を活用することで、事業費の助成やアドバイザーの派遣等の支援を受けながら、資源循環システムを構築できる。
結果	廃棄物担当である町民課に提案した。

○提案事業3 DV シェルター事業

事業名	DV シェルター事業【DV 対策】
事業概要	現在、DV 被害者は県の施設に避難しているが、収容人員に限りがある。昨年も町にDV 被害の相談があったため、DV 被害者が一時的に避難できるシェルター（宿泊施設）を設置する。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・DV 被害者を守ることができる。被害者がシェルターに避難している間に、町等の関係機関が対応を検討できる。 ・子育て世帯のDV 被害も多いため、子育て世帯が多い町だと必要である。 ・DV 被害者だけではなく、被災者向けのシェルターにも活用できる。
結果	<p>政策推進課（広域市町村連携担当）、保健子ども課（DV 担当課）に提案した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホテル等の宿泊施設と協定を結んでいる弘前市を視察した。 ・八戸圏域連携中枢都市圏でDV ワーキンググループ会議が立ち上がった。

○提案事業4 グリーンインフラ（公園・河川）によるウェルビーイング（幸福度）を向上するまちづくり

事業名	グリーンインフラ（公園・河川）によるウェルビーイング（幸福度）を向上するまちづくり【「公園管理事例」×「SDGs 自然緑地公園」】
事業概要	町の社会減対策として、地域の賦存する価値を見える化する必要がある。その中で、町の資源でもある自然豊かな「下田公園」「いちょう公園」等を国が認定する自然共生サイト（国民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域）とすることで、様々な活動や事業を展開する。
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs、生物多様性、防災等、公園の可能性を広げることができる。 ・自然共生サイトとして国に認定されることで、国から様々な支援（補助金、アドバイザー派遣）を受けられる。 ・大学等と連携し、下田公園やいちょう公園で、子どもたちと生物調査等のBioBlitz（市民参加型生物調査）のような活動が挙げられる。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・協力団体が必要になる等、長期で検討すべき事業のため、現時点での提案は保留とした。 ・下田タウン株式会社とNPO 法人 CROSS で、イオンモール下田のブナパークをビオトープにした。

○提案事業5 空き家を活用した事業

事業名	空き家を活用した事業 ※仮称
事業概要	町内の空き家を活用した事業を検討している。
今後の方向性	おいらせラボで協議する。

● 2年目（令和6年度～令和7年度）

- ・空き家を活用した地方創生事業（シモクバ）を検討しました。
- ・デジタル技術の活用と公共交通の充実をテーマに事業案の調査、検討しました。
- ・イオン主催の「これからのまちづくりを考えるワークショップ」に参加しました。

○空き家を活用した地方創生事業

事業名	空き家を活用した地域の交流の場づくり
事業主体	佐々木商事株式会社
事業概要	不動産業者が主体となって空き家（おいらせ町下前田）：シモクバを活用し、地域の交流の場として運営する。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の予防及び有効活用 ・高齢者の居場所づくりや世代間交流の場の創出 ・デジタル技術を学ぶ場（まずは高齢者向け）としての活用
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・下前田地区の新たな拠点（集会所）としても活用できるのではないかと。 ・今後は、周辺にみなくなる館や王将館があるので、こどもの居場所づくり、伝統芸能の拠点としても応用したい。 ・事業者の主体のまちづくり活動を行政が支援する事例となる。
要望	<ul style="list-style-type: none"> ・事業に対して、有識者等からアドバイス等をいただきたい。 ・持続可能な仕組みづくりを検討したい。
総合戦略との関連	第3期町総合戦略 基本方針 施策②-ア 移住・定住に向けた環境整備
今後の方向性	青森県の「持続可能な地域社会構築に向けた市町村伴走支援事業」を活用する。



○デジタル技術を活用した学びの場、集う場、コミュニケーションの場の検討

提案事業	今後の方向性
新庁舎、シモクバ、北部出張所等に無料 wi-fi スポットを設け、町民が自由に集い ICT 機器を活用した異世代間交流の場とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・シモクバに提案 ・関係課に提案予定
RAB アプリやほっとスルメールに「(仮)おいらスポット」をリンクさせ、町の防災無線等が聞けるようにする。	関係課に提案
地域のデジタル化推進をミッションとする地域おこし協力隊	町地域おこし協力隊員が町内の自主防災組織向けに LINE 講座を実施した。
地域おこし協力隊員制度を活用し、初心者向けスマホよろず相談会を実施	
プログラミング教育の一環で町の魅力を PR する取組	
ごちゃまぜアパート「ノビシロハウス」 アパート＋コミュニティスペース＋地域の医療拠点	
	政策推進課で検討 →空き家活用の可能性

○町の公共交通の充実に向けた提案

提案事業	今後の方向性
下田駅～百石高校～イオンを結ぶ無料自転車（位置情報付）無料特定小型原動機付自転車（位置情報付）を設け、WAON 決裁専用にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・イオン主催のワークショップに提案 ・おいらせ町地域振興協議会にて検討
イオン外周に健康ロードを設け、ランニング、特定小型原動機付自転車、シニアカーがそれぞれ走れるようにする。	・イオン主催のワークショップに提案
おいらバスや町民バスの運行状況が分かる位置情報アプリ対応型とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・イオン主催のワークショップに提案 ・おいらせ町地域振興協議会にて検討
村民バスと乗り合いタクシーを活用したデマンド交通の整備	
LINE ともだち申請による「友達バス」	
Drive my car「ライドシェア」	

○地域おこし協力隊による LINE 講座

三本木町内会（約 1 1 0 世帯）の自主防災会から、「災害時の連絡手段として役員（主に 6 0 ～ 7 0 代）向けの LINE 講座を開催してほしい」という要望を受け、移住・定住ミッションの地域おこし協力隊の宮康彰隊員が講師となって開催しました。

用 務	三本木自主防災会向け LINE 講座
日 時	令和 7 年 6 月 1 0 日（火） 1 8 時 3 0 分～ 1 9 時 4 0 分
場 所	三本木ふれあい館
講 師	政策推進課：宮康彰（地域おこし協力隊）
参 加 者	三本木自主防災会役員（8 名）、三本木町内会長、三田町内会長 計 10 名
目 的	防災組織の充実とデジタル・デバイト対策の一環として、おいらせ町がより住みやすい地域を目指す。
講座内容	LINE アプリインストールから、三本木自主防災会役員全員が所属する LINE グループ（自主防災会グループ）を作成し、個々で連絡を取り合う模擬訓練を行うところまでとする。
講師所感	<ul style="list-style-type: none"> ・意外にも皆、楽しそうに講義を受けて頂き、講師側も充実感を感じた。 ・LINE を知っている参加者の方が、自発的に他の方のサポートしていたことに、感銘を受けた。 ・講師 2 人に対して、参加者 10 人が適切だと感じた。 ・今後他の町民の皆様のご要望があれば、実施したい。



○イオン主催「これからのまちづくりを考えるワークショップ」について

5月15日には、イオンモール下田主催のまちづくりワークショップに参加しました。

目 的

新庁舎と新病院がイオンモール下田周辺に建設されることに伴い、町とイオン(株)が連携することで課題解決や町の発展につながる「まちづくりのアイデア」を自由に発言する。結果は、最終的においらせ町のまちづくり構想等に反映する。

参加者

おいらせ町役場職員、イオン(株)関係者、おいらせラボ部員

結 果

A グループ・・・イオンモール下田・公共交通・チャレンジショップ等で使える「夢を応援する」ポイントプロジェクトを企画した。具体的には、健康診断、古紙回収、イオンモール、公共交通機関等でためて使える町内ポイントとして広めていく。

B グループ・・・イオンの中にチャレンジショップ(居酒屋等の夜のチャレンジショップも含む)、医療機関専用のチャレンジクリニックを企画した。具体的には、また夜のチャレンジショップを「ナイト(夜)イオン」と題して、美容イベント、屋外ビアガーデン、イオン内に泊まれるトレーラーハウスの設置等を企画してはどうか。それに合わせてイオンモール下田で出しているシャトルバスの範囲拡大やレンタサイクル等も展開する。

C グループ・・・つながるイオンとして、子ども同士からお年寄り同士、バーチャルとリアル等をつなげるような事業や活動を企画した。つながるための2本柱としては、まずは「ポイント制」を導入する。何でも好きなことをするとポイントが貯まる仕組みをつくる。ポイントはイオンモール下田で使える。もう一本の柱は「場づくり」。みんなが参加できる場所をつくる。例えば、プレイパークやキャンプ場等で、さらにオープンな場所が良い。外から見ても楽しそうな場所をつくる。併せて、イオンモールの外側にある林や田んぼを横断的に活用し、使いたい人たちが一緒になってつくっていくことを提案した。

4. その他

2年間大変お疲れ様でした。また人口ビジョンや総合戦略の策定にもご協力いただきありがとうございました。皆様からのご意見やご提案は、町の発展のために活用させていただきます。これからも町政へのご協力をよろしくお願いいたします。

なお、次期おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議は、令和7年10月以降の開催となります。関係団体の皆様におかれましては、推薦依頼を送付しますので、引き続きご参画をよろしくお願いいたします。